

**製品名: PKC  $\delta$  ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab16202**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、ラット、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、 $-20^{\circ}\text{C}$ で保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:5000-1:20000
分子量	77kDa

**抗原情報**

遺伝子名	PRKCD
別名	PRKCD; Protein kinase C delta type; Tyrosine-protein kinase PRKCD; nPKC-delta
遺伝子 ID	5580.0
SwissProt ID	Q05655
免疫原	抗血清はヒト PKC デルタ由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 612-661

**背景**

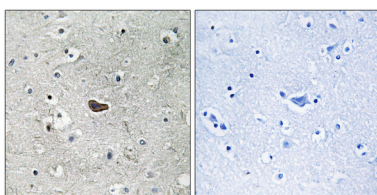
プロテインキナーゼ C (PKC) は、カルシウムおよびセカンドメッセンジャーであるジアシルグリセロールによって活性化される、セリンおよびスレオニン特異的なプロテインキナーゼのファミリーです。PKC ファミリーのメンバーは、幅広いタンパク質標的をリン

酸化します。また、多様な細胞シグナル伝達経路に関与することが知られています。PKCファミリーのメンバーは、腫瘍プロモーターの一種であるホルボールエステルの主要受容体としても機能します。PKCファミリーの各メンバーは特定の発現プロファイルを持ち、細胞内で異なる役割を果たしていると考えられています。この遺伝子によってコードされるタンパク質は、PKCファミリーのメンバーの1つです。ヒトとマウスの両方の研究では、このキナーゼがB細胞シグナル伝達、およびさまざまな細胞タイプの増殖、アポトーシス、および分化の調節に関与していることが実証されています。同じタンパク質をコードする選択的スプライシング転写バリエーションが観察されています。[RefSeq 提供、2008年7月],触媒活性: ATP + タンパク質 = ADP + リン酸化タンパク質。ドメイン: ホルボールエステル/DAG型領域1 (C1A) と2 (C1B) を含むC1ドメインは、ジアシルグリセロールセンサーです。ドメイン: C2ドメインはカルシウム非結合ドメインです。リン酸化チロシンを含むタンパク質に配列特異的に結合します。酵素制御: 完全に活性化するには、3つの特定の部位、Thr-507 (キナーゼドメインの活性化ループ)、Ser-645 (ターンモチーフ)、およびSer-664 (疎水性領域) がリン酸化される必要があります。機能: これはカルシウム非依存性、リン脂質依存性、セリンおよびスレオニン特異的な酵素です。PKCはジアシルグリセロールによって活性化され、それが様々な細胞タンパク質をリン酸化します。PKCは、腫瘍プロモーターの一種であるホルボールエステルの受容体としても機能する。B細胞機能の抗原依存的制御に関与する可能性がある。MUC1のC末端をリン酸化して、MUC1とβ-カテニンの相互作用を制御する。PTM: 活性化ループ内のThr-507がリン酸化される。自己リン酸化および/またはリン酸化される。Thr-507のリン酸化は起こるが、酵素活性の必須条件ではない。類似性: タンパク質キナーゼスーパーファミリーに属する。AGC Ser/Thrタンパク質キナーゼファミリー。PKCサブファミリー。類似性:1つのAGCキナーゼC末端ドメインを含む。類似性:1つのC2ドメインを含む。類似性:1つのタンパク質キナーゼドメインを含む。類似性:2つのホルボールエステル/DAG型ジンクフィンガーを含む。サブユニット:PKD1、RAD9A、CDCP1、およびMUC1と相互作用する。

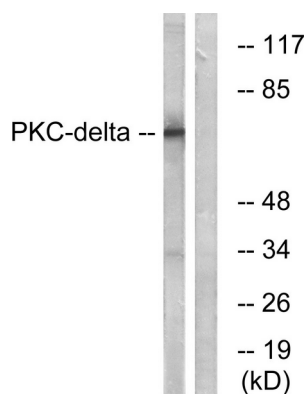
## 研究分野

微小管制御; アクチンダイナミクスの制御; 幹細胞経路; インスリン受容体; B細胞受容体; AMPK

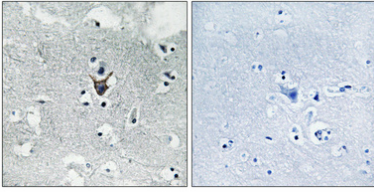
## 画像データ



PKCデルタ抗体を用いたパラフィン包埋ヒト脳組織の免疫組織化学染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした状態。



PKCデルタ抗体を用いたMCF7細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンには合成ペプチドでブロッキングされている。



パラフィン包埋ヒト脳の免疫組織化学染色。抗体は 1:100 (4°C、一晚) に希釈した。抗原賦活化には、高圧高温トリス EDTA (pH8.0) を使用した。抗体から得られたネガティブコントロール (右) は、免疫原ペプチドで前処理した。